

井川大仏の由来

井川大仏は、井川診療所の歯のお医者様佐藤平一郎先生が、奥様と共に、四年の歳月を費して制作されたもので、高さが十二メートルもある大きなものです。

佐藤先生は、大正四年、北海道室蘭市に生まれ、旧制室蘭中学を出て上京し、日大芸術科に学びましたが、後、志を転じて日大歯科に移り、歯のお医者様になりました。

先生はつねに、「健康の根源は、一本々々の歯を大切にすることにあり、僻地の人たちは、治療に行くこともできないで、あたら尊い寿命を縮めている。」となげかれて、僻地治療を決意し、卒業と同時に、自ら進んでアイヌ村に赴任し、以来、僻地のお医者様を通して来られました。

昭和五十年八月、先生は招かれて、井川診療所の人となりました。井川は、南アルプス赤石連山に囲まれて、いまでも太古のままの林を留めている、小さな山里です。

先生は、井川の夜明けの清らかさと、日の出の美しさに心をひかれ、時には裏の丘に登り、時には湖畔に佇んで、この神秘的な光景に見入っていました。そのうちに、「そうだ、私も、おかげと六十余年を無事に過すことができたが、ここで、お礼の意味をこめて、この美しい土地に仏像を建立しよう。」と思立たれたと言います。先生の、願文に、こう書かれています。

「四海平等

人類の平和・繁栄

一切の恵興を祈念す」

と先生は、「どの宗派ということなく、どなたにも気持よく拜んでいただけるような、諸々の仏様のお徳を備えた大仏様を造りたい。」と考えられました。

仕事に取りかかったのが、昭和五十二年九月でした。重量二十数トンに及ぶ大きなものですから、運搬のことを考えて、頭部と、胴部と、腰部の三つに分けて、取りかかりました。鉄骨を組んで軸とし、これに、「コテ、コテ、セメントを塗りつけていく工法です。しかも、歯科診療の合間をみて、土曜の午後とか、日曜日を利用して進める仕事ですから、忍耐と困難は、とても、筆や口で現わせるものではありませんでしたが、先生夫妻は、雨の日も、風の日も、せつせと、二軒の道を作業場へ通い、精魂こめて作り続けました。

先生の精進に心をひかれて、協力する村の人たち、この報導に感激して、激励のこぼを送る各地の人々の輪が、日と共に大きくなり、いまや、大仏建立は、先生ご夫妻だけのものではなくなりました。

昭和五十五年八月十日、奇特な土地提供者、望月寿氏の好意により、曾って、佐藤先生が日の出の靈光を仰いだ湖畔の丘、望寿台に、念願の仏像を安置することができました。

大仏の胎内には、全国各地から寄せられた回向のための写経と、この事業に協力されたお宅の靈位・願文などが、納められております。

昭和五十五年十二月二日、真言宗智山派医王山油山寺貫主鈴木快存僧正を導師として、開眼・供養の儀が厳修され、ここに、一切如来と称する井川大仏が誕生いたしました。

地図で見ると、井川は日本の中心部にあたります。この大事な土地に諸仏一切の徳を備えた大仏が建立されたのも、ふしぎな縁としか考えられませんが、慈しみをたたえたそのお容は、晴れた日も、曇った日も変わることもなく、いつまでも井川や、日本の行く末を見守ってくださいと願っています。

